

科目名	行政改革論
担当者	辻隆夫
配当学期	秋学期
単位	2単位
授業概要	日本における行政改革の展開を中心に、その理論と実態について、日本の行政の特質を踏まえて、多角的に検討します。具体的には、内閣機能および内閣総理大臣の機能の強化、中央省庁の再編、公務員制度改革、地方分権改革などをテーマとし、担当教員による基礎講義と履修者による文献講読と報告および討論を中心に授業を進める予定です。
授業の到達目標	行政改革の立案・決定・実施における組織管理、人事管理、中央—地方関係などについての意義と問題点を、日本における事例に即して理解することを通達目標とします。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 講義予定と内容についての説明と相談</li> <li>(2) 文献資料の配布と解説および報告担当者の割り当ての相談</li> <li>(3) 基礎講義（1）1960年代の第1臨調と行政改革</li> <li>(4) 基礎講義（2）1980年代の第2臨調と行政改革</li> <li>(5) 基礎講義（3）1990年代の橋本行革と中央省庁再編</li> <li>(6) 基礎講義（4）日本の公務員制度の展開と特質</li> <li>(7) 基礎講義（5）近年における公務員制度改革の動向</li> <li>(8) 基礎講義（6）地方分権改革の意義と課題</li> <li>(9) 内閣機能の強化と総合調整に関連する文献報告と討論</li> <li>(10) 中央省庁組織再編に関連する文献報告と討論</li> <li>(11) 官僚制と行政改革に関する文献報告と討論</li> <li>(12) 公務員制度改革に関する文献報告と討論</li> <li>(13) 中央—地方関係に関する文献報告と討論</li> <li>(14) 地方自治体の区域と機能に関する文献報告と討論</li> <li>(15) 後期全体の内容に関する総括とレポート課題の提示</li> </ul>
教科書	特に指定しません。上記の文献報告で使用する文献資料については、履修者の希望も考慮したうえで、担当教員が必要な人数分を作成し配布します。

参考文献	特に指定しません。学部時代に「行政学」またはそれに類する専門科目を全く履修したことのない方は、西尾勝『行政学（新版）』（有斐閣）をお勧めします。	
成績評価方法		評価基準
	試験 %	
	レポート 50 %	履修者自身の問題意識や課題意識におけるオリジナルな視点を重視して評価します。
	平常点評価 50 %	授業への出席状況、文献報告の内容、質疑応答への積極性と貢献などを総合的に評価します。
	その他 %	
関連 URL	特にありません。	
備考	特にありません。	